

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770701130		
法人名	有限会社サポートハウス藤		
事業所名	サポートハウス藤千代田		
所在地	河内長野市小山田町1304		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770701130&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成22年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者を中心として家族の絆、スタッフとの絆が”愛と感謝”の言葉を通して育まれて行く事を常の願いとし、利用者の一人一人がたとえ日常生活レベルの低下があったとしても、その人らしくを追求し実践して行く理念と情緒にあふれた介護の現場を作り上げていく事を目標において、様々に工夫をこらしている。例えば日常的に行う足浴や、リビングや居室内に観葉植物を配置するなど、身近に植物や緑を感じ気分の安らぎが得られるようにしている。又必要な人には午後からのお昼寝タイムを導入し、日中の疲れを緩和するなどしている。午前中は天気の良い日は庭に敷物を敷きレクリエーションをするようしている。毎日の天気を感じ生活する環境を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の視点に立った、本人が望む「自立した生活」の為の支援のあり方を、管理者と職員が工夫しながら、グループホーム本来の目的である認知症の進行抑制に取組んでいる。夜間の職員体制を1ユニットにもかかわらず夜勤と宿直の2名体制を敷いて、本人及び家族への満足度向上と職員の負荷軽減を図るべく経営的努力が続けられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と共にある生活を基本とし、「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」を理念として、管理者、職員は利用者の日々の生活の場面に細やかに実践している。	利用者の目線に立ったケアの実現を目指し、利用者と一緒に地域で暮らし続けるという理念を掲げて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の代表者や市職員、民生委員、家族などの参加の中、地域推進会議を開催している。また季節の折々の行事に地域のボランティアの協力を得る内容もある。	地域のシルバー人材センターから庭の手入れや、調理・清掃等を担当する職員を受け入れて事業所と地域のつながりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な地域推進会議を開催し、地域の方や家族に認知症の人の理解や支援の方法を話しあう場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な地域推進会議にて、利用者の状況やサービス・取り組みの実際について報告・話し合いを行っている。	運営推進会議の開催頻度は、出席メンバーのスケジュール調整等で半年に1回しか開催できていない。会議では事業所の取り組み内容を報告し、出席者の助言を得ている。	会議開催の調整に苦労しているが、事業所は地域に密着した運営が求められている。平成22年度改訂の当該評価について市の担当者に理解・協力を求めるなどして開催回数を増やすことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアネットワーク会議や運営推進会議の時に市及び包括の担当職員との意見交流をしている。	事業所の課題や取り組み内容を報告すると共に、必要に応じて市の担当者と接触することを心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の意味を理解すると共に、毎回のケアカンファにおいて常に確認している。日常の生活の流れの中に身体拘束をしないケアの実践を行っている。	本人の望む暮らしの実現を支援する介護の視点を大切にして、職員同士で話し合いながら身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止関連法についての知識を有しており、スタッフに適宜指導している。また、事業所内において虐待の事例は起こっていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護を学ぶ機会はないが、個々の必要性に応じ、地域の関係者との話し合いを通して、活用していく用意はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもとより、入所検討時にも説明し、理解・納得を図ったうえで本人や家族の判断でホームでの生活について考えていけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問の時や意見箱の利用等で家族の意見、要望を聞くことができる。又その意見は日々の申し送りや会議の時の議題とし、話し合っている。	家族の訪問時には、職員は親しく家族に声を掛け、要望や意見を言いやすい雰囲気づくりに心がけている。健康状態や生活の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議にて運営に関する意見を話し合う機会を設け、反映できるようにしている。	職員の定着度が高くなってきている。代表者はカンファレンスやスタッフ会議の場で運営に関する意見を聞き、出来るだけ反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスタッフの生活の実情に応じた勤務環境・条件に近づけられるよう、対応している。また、やりがい・向上心を持って働けるよう、定期的に勉強会も開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける職員は勤務の関係上限られているのが実情であるが、施設内での勉強会は、折々に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホームの交流会に参加し、勉強会や情報交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は本人及び家族の不安、混乱が緩和されるように、密に接する関係を持ち、報告、連絡を良くし、安心を確保できるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は本人及び家族の不安、混乱が緩和されるように、密に接する関係を持ち、報告、連絡を良くし、安心を確保できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人との関わりや、家族からの聞き取りとその場その場の状況に応じて必要と思われる支援を行っている。他のサービスの利用については行われていないが、行事開催時にはボランティアの協力を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はその人に添った介護の中で利用者からの労いの言葉や、感謝の言葉を受けることでの喜びがあり、共に暮らすという意味をすることができる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に介護する視点を持って、家族の来訪を大切に、家族の意見を真摯に受け止めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会、外出できる体制をとっており、馴染みの人と過ごすことが可能な環境を整えている。	本人のこれまでの生活歴や人間関係をアセスメント関係資料にまとめ、本人が望むような生活の継続を支援するように心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、状況に応じてリビングでの席の配置を検討し、適宜変更も行っている。また、いろいろな活動を利用者同士で楽しめる機会も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時には、今後も相談に応じることができる旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的な会議や本人からの聞き取りにて、本人の思いや希望について話し合い、把握に努めている。	介護をする立場でなく、利用者の目線に立つケアを職員全員で考えている。本人が望んでいることは「何か」を皆で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にこれまでの生活歴の把握をしている。サービス利用の経過等は定期的なモニタリングを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り、一人ひとりのペースで生活できるよう、定時でのサービスや介助は避けている。また、心身の状態は医療との連携を図りながら行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけの見解ではなく、介護スタッフ、本人、家族、管理者との意見や現状を踏まえた上で介護計画を作成している。	利用者一人ひとりに時間をかけたカンファレンスを行っている。担当職員が作成した「生活目標プラン」を皆で話し合ってから「介護計画書」を作成する手順を確立している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には「場面のエピソード」という項目を作成し、職員間でよりその人らしさを共有していけるよう工夫している。また、介護計画作成の際、参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われないう、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況が変化した際には、都度話し合い、サービス内容を検討し直すようにしている。複数のスタッフと管理者が意見を出し合うことで、より多様なアイデアができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事開催時にはボランティアの要請をすることもあるが、日常生活内において地域資源を活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の医院に往診を依頼しているため、本人や家族の希望に沿った医療を受けることが出来ている。また、往診以外でも家族の意向に沿った病院へ受診するようにしている。	利用者および家族の希望を聞いて以前からのかかりつけ医での受診継続に対応している。医療ノートを活用しながら、訪問診療や歯科診療等利用者の健康管理面については万全を期している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護職員がいないが、定期的な往診の際や、利用者の状態変化に気がついた際には電話にて問い合わせ・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、病院関係者との情報交換はもとより、適宜見舞うことで利用者の安心と状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入所検討時に説明しているが、状況に合わせて随時家族との話し合いを行い、理解を求めている。	入所時に家族に対して重度化、終末期における事業所の方針を話している。何らかの対応を必要とした時に家族やかかりつけ医と話し合って対応を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議時に応急手当の方法を周知すると共に、必要物品をわかりやすく保管している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時の避難訓練は年に1回程度実施している。又日常に於いては緊急連絡網をリビング内に掲示し、意識付けを行っている。	利用者を含めた避難訓練は行っている。消防や家族への緊急連絡のマニュアル整備に取り組んでいる。夜間職員2名での勤務体制を敷いている。	万一の場合は訓練通りに職員が動くことに越した事はない。職員だけの想定訓練を毎月など定例的に実施するなどして、意識の繰り返し確認と避難方法の習熟を狙った災害対策を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者がスタッフに人格の尊重とプライバシーの配慮について助言・指導している。又スタッフ同士でも気づくことが出来るようにお互いのコミュニケーションを良くしている。	職員は利用者個人の尊厳を大切にしながら、話しかけたり、誘導したりしている。個人の記録などの個人情報の取り扱いにも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	場面場面において利用者自身の思いを話す機会を設けたり、希望を表しやすいよう日々のコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活に対する思いやペースを尊重できるような業務時間を取り入れているため、利用者の状況にあわせて業務時間の変更も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の衣類を本人が選択できるように支援している他、お化粧品やパック、マニキュアを楽しめるよう物品を揃え、楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族にも協力を得ながら、好みのものを食べられる機会を設けている。また、利用者とスタッフが一緒におやつを手作りしている。	調理はシルバー人材の職員で交代に担当している。利用者が配膳や後片付けに参加するなど、生活リハビリという側面も重要視されている。「食事のにおい」にも配慮した献立となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認は毎食行い、水分も内容を変化させながら少しずつ提供することで苦痛なく水分摂取量の確保に努めている。状況に合わせて刻み食やとろみ剤も利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力にあわせて、声かけや一部介助・全介助にて食後に口腔ケアを行うと共に、週1回歯科の往診も依頼し、口腔内の点検・清掃をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な利用者においては、排泄間隔に合わせて一部介助や誘導をしている。自己にてトイレに行く利用者に関しては見守りを行い、汚染時や動作が難しい際のみ介助するようにしている。	本人の排泄パターンを把握して誘導するようにしている。出来るだけ自立した排泄が維持できるように介助の仕方にも工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全利用者の排便状況は毎日把握し、記録している。状況に応じて下剤の使用もしているが、日々、水分補給や運動、朝食後に便座に座ってもらいマッサージすることで自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間においては本人の希望を聞きながら検討している。また、入浴日に体調不良や拒否があった際には翌日に変更する等、柔軟に対応している。	入浴は週に2~3回である。職員はくつろいだ入浴をしてもらえるような支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣となっている人には、毎日決まった時間に、体調が思わしくない人には適した場所にて午睡を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬と一緒に薬剤情報の用紙を保管しており、薬の目的や副作用等についてスタッフ全員が把握できている。服薬内容が変化した際には服薬後の状態を詳細に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアカンファレンスにおいては、個々の利用者の個性に着目して話し合いやサービス内容を検討している。また、嗜好品や今できること、得意だったこと等も日々の生活に取り入れることができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って散歩等を取り入れてはいるが、本人の満足するところまでには至っていない。ホームから行くことが難しい場所においては、家族の協力を得るようにしている。	天気の日には、朝から庭に出て外気浴を行っている、夏にはパラソルで日陰をつくり、暖かい日にはお茶を飲んでゆっくりと時間を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者はいるが、ホームで生活している中で本人自身で使える機会を提供できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があった際にはスタッフが必要な部分の援助をしている。また、レクリエーションの一貫として季節の手紙を出す機会も作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には落ちついた家具の配置や、空調の管理等の他に、観葉植物を置いたり、季節の壁画を作成したり、和室を設けることで居心地のよい空間作りに努めている。	共用空間は清潔に保たれていて感じが良い。室内のあちらこちらに観葉植物を置いている。利用者は植物に「いのち」を感じて、植物から生きる元気をもらっているよう思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間における和室とリビングの間には扉があったり、ソファの配置の工夫により、思い思いの過ごし方もできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具については、本人や家族の同意の上、居室の規模にあったものであるが、その他に使い慣れたものの持込みや配置は本人や家族にお任せし、心地よく過ごしてもらえるようにしている。	居室も清潔である。馴染みの家具等が置かれて、フローリングに畳を敷いた部屋もあり、利用者が落ち着いて過ごせる雰囲気になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、安全に自身の力で移動や行動ができるよう手すりや表札の設置、床面の清掃や扉の工夫等の環境を整えている。		